



編集人 川崎市障害者社会参加推進センター
所長 関山進
編集責任者 広報・啓発委員会
委員長 伊藤 實
〒210-0834 川崎区大島 1-8-6
川崎市南部身体障害者福祉会館内
電話 044-246-6941
FAX 044-246-6943
E mail zksk@nifty.com
http://kawashinkyo.org

令和 5 年度川崎市身体障害者福祉大会 開催



(主催者あいさつを行う関山進大会会長)

令和 5 年 7 月 2 日(日)中原区宮内の会館と
どろき 2F 大会議室にて「令和 5 年度川崎市身
体障害者福祉大会」が式典と講演の二部構成
で開催されました。

大会スローガン「**自立と共生の地域社会の
実現に向けて**」を掲げ、川崎市内の身体障害
者及び関係者が一堂に会し、約 100 名の方
にご参加いただきました。今年が高津区・宮前
区が当番になり準備を進めてきました。今年

5 月から新型コロナの感染症法上の位置付け
が 2 類相当から 5 類に移行されたことを受け、
今回の福祉大会開催にあたり、昨年までのパ
ーテーション設置は行いませんでしたが、基
本的な感染予防対策を講じての開催となりま
した。

第一部 式典

薄典子^{すずきのりこ}大会実行委員長の開会のことばよ
り始まり、関山進^{せきやますずむ}大会会長(川崎市身体障害

者協会理事長)による主催の挨拶と続きました。

伊藤弘川崎市副市長、岩隈千尋川崎市議会副議長、奥村尚三社会福祉法人川崎市社会福祉協議会副会長の 3 名よりご挨拶を頂戴した後、ご来賓の方々の紹介と続き、障害種別構成団体等の代表者による令和 6 年度に向けての要望事項の発表及び要望事項に対する質問が行われました。

報の様々な取得方法」の項目では、防災情報を入手するための方法の一つとして、市内の災害に関する緊急情報、被害情報、避難情報などが掲載される「川崎市防災情報ポータルサイト」のことや、川崎市の公式アプリサービス「かわさき防災アプリ」では、災害時の緊急情報や避難場などをプッシュ通知で受けられたり、最寄りの避難所や各種ハザードマップを見ることができると紹介されました。

そのほか、「マイタイムライン」を作成しておくことで、災害が発生した場合の具体的な行動計画を事前に考えることができ、災害発生時の判断や行動が迅速に行えるため安全を確保しやすくなること、タイムラインを共有することで、家族や近隣の人々との連携やサポートがしやすくなるなど、作成の重要性について学ぶことができました。

令和 6 年度に向けての要望事項	
視 覚	視覚障害者情報アクセシビリティ支援事業を令和 6 年度以降も継続して実施するよう要望します。
聴 覚	高齢ろう者、ろう重複障害者が集える場の整備と充実を要望します。
脳 性	駅構内のトイレに障害者の排泄介助が可能なベッドやリフトの設置を要望します。
脊 損	「自動車燃料券」交付制度の実施を要望します。
オストミー	ストーマ装具給付は、二区分ではなく、三区分での支給を要望します。
難 聴	人工内耳の電池及び体外機等の購入に助成を要望します。
腎 臓	障害児者・透析者を含む移動困難者に対する通院・送迎の支援をさせていただきたく要望します。
川身協	心のバリアフリー普及に向けたより発展的な取り組みを要望します。

第二部 講演

10 分ほどの休憩後、『災害に備える～災害に対する情報と知識～』をテーマに、川崎市健康福祉局総務部危機管理担当課長の土谷豊氏をはじめ職員 3 名を講師に迎え、講演を頂きました。

講演は、項目ごとに様々なスライドを用いながら行われました。「災害・防災に関する情

福祉大会参加者感想

大会実行委員会では、大会終了後にアンケートを回収いたしましたので、その中から一部を抜粋してご紹介いたします。

- ・来賓等に対してはなるべく要望事項について聞いて行って欲しい。
- ・それぞれの団体が参加者を募り、もっと沢山の方々に参加してもらおうと思った。
- ・防災講座や危機管理の話が分かりやすかった。
- ・講演について、いつどこで、災害が起こるかかわからない近年、自分のまわりに起こること、自分で身を守ることの大切さを改めて感じた。
- ・声が聞こえにくい時がありましたが後から改善されていました。

このような貴重な意見を元に、次回の福祉大会をより良いものとするための取り組みを進めてまいります。

令和 5 年川崎市心身障害児者福祉大会

令和 5 年 6 月 24 日(土)13 時より「**障害のある人もない人も共に生きる川崎の街に**」を大会スローガンに、市内 3 つの心身障害児者保護者団体会員・一般参加者そして来賓の方々を迎えて、高津市民館大ホールにて川崎市心身障害児者福祉大会が開催されました。

大会は、令和 2 年は新型コロナウイルス感染症のため中止。令和 3 年・4 年は、規模を縮小して開催しましたが、今年は、従来の形に戻し開催することができました。

第 1 部式典は、一般社団法人川崎市自閉症協会こいづみ かよ小泉佳世会長による開会のことばより始まり、本年大会実行委員長・川崎市育成会手をむすぶ親の会みわ美和とよみ会長の挨拶に続き、福田紀彦川崎市長・青木功雄市議会議長あおきのりお・今富子社会福祉協議会副会長による来賓者ご祝辞をいただき、来賓者紹介の後、大会宣言が読み上げられ採択されました。

第 2 部では、小山珠美氏（NPO 法人口から食べる幸せを守る会理事長）を講師にお招きし講演会を行いました。

講演会では、口から食事を摂ることの大切さ（幸せ）、食事を見て・匂いを嗅ぐ・味わうことで「おいしさ」を感じられることなどについて、講師ご自身の経験を通して分かりやすく話され、話の後半では、ペットボトルの水を使って具体的にものがどのように喉を通って行くのかを体験し、食事を安全に食べるにはどのように食事のサポート（介助）をすればよいのか、生活の質を高めていくためには食事がいかに大切かについてお話を聞くことができました。私たちが普段無意識に行っている食事の動作を知ること、自力で安全に食事することが困難な方に、安全においしく食事を摂ってもらうサポートへの一助になればと、お話を伺いながら感じました。

（社会福祉法人ともかわさき事務局分室

藤卷 仁）

「大会宣言」

本大会のスローガンである“障害のある人もない人も共に生きる川崎の街に”を実現するため、ここに集う方々と共により一層行動することを誓い、次の事項を決議します。

1. 地域の中で、安心・安全に暮らせるまちづくりを目指します。

令和 3 年度から施行されている第 5 次ノーマライゼーションプランでは、「障害のある人もない人もお互いを尊重しあいながら共に支え合う自立と共生の地域社会の実現」とありますが、それが着実に進んでいるのか見直す時期にきています。

一人ひとりのライフステージに合わせた、多様なニーズに応じられるサービスの整備とそれを計画する相談支援体制の更なる充実を求めます。

同時に、障害特性を理解し、状況に応じて柔軟に対応できるような人材の確保と育成の促進を強く望みます。

2. 地域の一員として安心して暮らし続けられることがあたりまえの社会になるよう、一層の啓発を進めます。

障害者差別解消法に謳われている「障害を理由とする差別のない、自立と共生の地域社会づくり」のためには、障害理解の一層の啓発を進めていかなければなりません。一人の人としての人権が尊重され、安心して過ごせるあたりまえの暮らしと幸せを求められる地域社会を目指し、啓発を進めてください。親の会も、ともに啓発を進めてまいります。

障害があってもなくても共に認め合う共生社会の実現、人権尊重のまちづくり、共に生きる社会の実現を目指して、私たちと一緒に考えてください。

令和 5 年 6 月 24 日

令和 5 年川崎市心身障害児者福祉大会実行委員会

ペアレントメンター茶話会のご紹介

一般社団法人川崎市自閉症協会では、川崎市の「発達障害児・者支援体制整備事業」の一環として、市からの委託事業「ペアレントメンター事業」を実施し、3 年間にわたりペアレントメンターを養成しました。

「ペアレントメンター養成講座」を修了しメンターとして認められ活動するのは、医師や療育の専門家等とは違う立場で、自閉症・発達障害のある子どもを育ててきた経験のある親たちです。この経験を活かし保護者の方に寄り添い信頼できる相談相手となるよう、養成講座修了後も定期的にフォローアップ講座を実施し、ペアレントメンターとしてのレベルアップに努めています。

令和 4 年度からは、自閉症・発達障害またはその可能性のある子どもの子育てに悩んでいる保護者の皆様のお話をお聞きする茶話会「メンターカフェ」を開催しています。川崎市の療育センターの管轄地区を参考に、市内を 4 つの地区に分けて実施していますが、居住地に関係なくご都合のつく地区の茶話会にご参加できます。

参加者は、川崎市在住のおおむね小学校 3 年生までの自閉症・発達障害またはその可能性のあるお子様の保護者で、少人数で一人ひとりのお話をゆっくりお聞きできるよう定員は 5 名としています。

以下これからの茶話会「メンターカフェ」の実施予定です。詳しくは当協会のホームページをご覧ください。

[<http://kusabue.la.coocan.jp/index.html>]



◎西部（宮前区）

日時：2023 年 10 月 14 日（土）10 時～12 時

申し込み締め切り：10 月 9 日（月）

場所：高津市民館 第 3 会議室

◎北部（多摩区・麻生区）

日時：2023 年 10 月 16 日（月）10 時～12 時

申し込み締め切り：10 月 11 日（水）

場 所：川崎市発達障害地域活動支援センター
「ゆりの木」3 階会議室

◎中部（中原区・高津区）

日時：2023 年 10 月 23 日（月）10 時～12 時

申し込み締め切り：10 月 18 日（水）

場所：川崎市総合自治会館 小会議室 2・3

◎南部（川崎区・幸区）

日時：2023 年 10 月 28 日（土）10 時～12 時

申し込み締め切り：10 月 23 日（月）

場所：ふくふく 3 階川崎市発達相談支援センター遊戯室

今回のペアレントメンター茶話会（メンターカフェ）は、来年 2 月を予定しております。今後の課題としては、「メンターカフェ」のことを皆さんにもっと知って頂き、気軽に参加して下さる方を増やしていきたいと思えます。

* ペアレントメンターとは

障害がある子の子育て経験のある親が、養成講座（所定の研修）を修了し、医師などの専門家ではなく同じ親の立場で当事者・家族に寄り添いつつ支援を行う者です。川崎市では当協会の会員でメンターの資格を有する者が、市から委託された「発達障害児・者支援体制整備事業」として活動しています。

（一般社団法人川崎市自閉症協会

代表理事 小泉 佳世

川崎市内の事業所紹介「生活介護事業所かせやま」

生活介護事業所かせやまは、令和 5 年 3 月に開所した事業所です。元々は「つくし」という名称で令和 2 年 3 月まで活動していました。そこが建替えのためしばらく休止し、この春「かせやま」に改称して再開しています。そのため、近隣の方には以前のつくしの方が馴染み深いようですし、グーグルマップもまだつくしのままになっています。

そんなつくし改めかせやまですが、建替え前と後ではこんなに変わるのかというくらい、使い勝手の良い建物になりました。目をつむると、某リフォーム番組のあのナレーションも聞こえてくるようです。南向きの作業室は大胆に採光がなされて、日当たり抜群の室内では 27 名の方々が日々活動されています。



(外観)

かせやまの利用定員は 40 名なので、今後は徐々に利用人数も増えていく見込みです。作業（ボールペンや電子部品組立・封入作業他）・余暇活動（バスハイク・調理会他）・健康管理などのサービスを提供し、皆が安心して通ってもらえる事業所を目指しています。

そのためには、ハード面だけでなく職員による質の高い支援が必要不可欠です。具体的には、①チームで支援すること ②必ず振り返りを行うこと ③そのための時間や手間を惜しまないこと ④これらの記録を残すことを大事にしています。これらの全てを完璧に実行するのは容易ではありませんが、限られた時間や人数を工夫して実行できるよう、職員は日々努力を重ねています。もちろん、ご家族や関係者の方々とも連携しながら、より

よい支援を提供していきます。

かせやまは比較的静かな利用者さんが多い事業所です。法人内の他事業所より年齢層がやや高めなこともあって、全体的にゆっくりしたペースで活動しています。ただ、決して動きが少ないわけではなく、室内でダンスをしたり身体を動かすのが好きな方も多いです。



(作業室の様子)

そもそも、建物が閑静な住宅街の奥に立地しているので、ご近所付き合いの面でも静かなかせやまはちょうどよいのかもしれない。私たちも近隣との良好な関係を保つために、日頃の挨拶や丁寧な車両運行などを心掛けております。こうした所謂「顔の見える関係」が平時はもちろん、万が一の災害時などにも生きてくるのではないかと思います。

また、かせやまの建物には「地域相談支援センターラルゴ」も併設し、障害のある方の相談やサービスの調整、情報提供などを行っております。

3 月に開所してからあっという間に半年が経ちました。まだまだやるべきことは沢山ありますが、それ以上に伸び代も沢山あると思っています。そんな「かせやま」をこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

社会福祉法人ともかわさき

生活介護事業所かせやま

〒212-0057 川崎市幸区北加瀬 2-11-17

TEL 044-599-6071 FAX 044-599-6072

* ご見学等、お気軽にご連絡ください。

(管理者 とまり のぼる 泊昇)

ハッピーオストメイト

手記「わたしの膀胱ガン体験 2010」(吉松恵子^{よしまつ けいこ}著) より抜粋

2010 年 8 月 10 日の午後、私は S 大学病院の泌尿器科外来の検査室で緊張と不安でいっぱいだった。ネット上に「つらい検査」と書かれていた膀胱鏡検査を受けようとしていたのだ。検査台に上がったまま、医師がやってくるまでしばらく待たされた。看護師と言葉を交わして少し緊張が和らいだところに、三十歳代と思われる男性の医師が現れ、無造作に検査を開始した。私は体を固くして左上方のモニター画面を見つめた。と思う間もなく視界一杯に巨大なインゲンチャクのようなものが広がった。私は驚愕して、「これは何ですか」と叫んだ。医師は「膀胱腫瘍です」と断言し「これで診断がつかしました」と勝ち誇ったような口調で付けくわえた。私は検査台からころげ落ちそうになりながら何とか降り立って身仕度をした。看護師が気の毒そうに見ているのがわかった。検査の痛みはまったく感じなかった。

数分後、私は診察室でさきほどの医師と向かい合っていた。医師は「膀胱腫瘍の 9 割は悪性です。あなたの腫瘍の大きさはゴルフボール位あります」と、図を描き、腫瘍は悪性度と深達度によって治療法が変わることなどを説明したが、言葉は私の頭を素通りするだけで意味はつかめなかった。ただ、尿道から内視鏡を入れて腫瘍を削る手術をすること、そのために入院が必要であることだけはかろうじて理解した。その晩はほとんど眠ることができなかった。

私と泌尿器科の付き合いは、この日から 8 カ月余りさかのぼった 2009 年 12 月に始まる。その日、私は尿にわずかな血液が混じっているのに気付いて地元の泌尿器科クリニックを訪ねた。医師は尿検査をして心配ないと説明し、再度血尿があったら受診するようにと付

け加えた。

しかし、6 月末から下腹部の痛みと共に血尿が再発。治ったかと思うとまた現れるうえに、全身の倦怠感も加わった。私は精密検査を受けたいと申し出て S 大学病院への紹介状を書いてもらった。

S 大学病院で膀胱腫瘍と診断された私は、9 月初旬に入院して尿道から入れた内視鏡メスで膀胱腫瘍を削り取る手術を受けた。退院の約十日後に外来で、腫瘍から悪性度が最も高いガン細胞が検出される一方、ガンが筋層に浸潤しており取りきれなかったため追加治療が必要であるとの説明を受けた。最も予後が良い治療法は膀胱全摘手術であると聞いた私は、その場で全摘手術を受けたいと伝えた。膀胱を摘出することの大変さは頭に無く、生き延びたい一心だった。

一日も早い手術を希望したが、S 大学病院での手術は早くても 3 ヶ月近く先になると言われた。さらに、この病院の膀胱全摘手術の実績は年に 1 例のみであることがわかった。この病院での手術はあきらめようと思った。通院可能な範囲の病院の手術実績を片っ端から調べた。自宅からの距離にこだわらず広い範囲で病院を探すことにした。

国立がんセンターのウェブサイト上で「がん診療連携拠点病院」情報を検索して、G 専門病院への受診を思い立った。私は早速セカンドオピニオンを申し込んだ。本当の目的は、一日も早い膀胱全摘手術をお願いすることだった。願いは聞き入れられ、約 40 日後の手術がその場で決まった。病院からの帰途は、数カ月ぶりに生き続けることへの希望が見えた思いがした。

しかし、私はまぎれもない進行がんの患者であった。仕事は何とか続けていたが体調は非常に悪く、絶え間ない全身の倦怠感や腹痛に悩まされていた。手術を無事に乗り切った

としても筋層浸潤がんの 5 年後生存率は決して高くない。今までは遠い先のことと思って「死」を間近かなものとして実感した。自分はいつまで生きられるだろうか、遠からず死ぬのであれば、残された時間に何をすべきか、全摘手術を受けるまでの日々、私はそのことだけを考えていた。

これからは「生きてて良かった！」と感じる瞬間をできるだけたくさん持ちたい、自分はどんな時に「生きてて良かった！」と感じるだろうか？自分に問い続けた結果、仕事をしている時にそう感じる人が多いことに気付いた。私は、ささやかではあるが自分にとっては天職とも言える仕事に恵まれ、20 年以上一つの職場で働いて来た。「よし、もし仕事を続けることができたなら、とことん仕事を楽しんでやろう」と決意した。

職場復帰が叶わなかったときは、ガン患者のサポート団体に入会して体が動く限りは活動することにした。私は人の話を聴くのが大好きで、相手と話が弾んだときに「楽しいなあ」と心から感じる。話を聴くのが上手かどうかはわからないが、好きなことはきっと上手にできるだろうと思った。相手に喜んでもらうこともできそうだ。一方で、突然ガン患者になった私には、人に聴いてもらいたいことも沢山ある。サポート団体では、まずピアカウンセリングに参加して自分を支えてもらい、やがては自分の体験を生かして支える側に回りたいと思った。

自分がこれからやるべきことを決めたら少し気持ちが落ち着き、サポート団体の情報を集めたり入会方法を確認した。

私は、予定どおり G 病院で膀胱全摘手術を受けた。手術は、膀胱、子宮、卵巣を摘出し骨盤内リンパ節を郭清し、腹腔内に回腸の一部で代用膀胱を作るもので 8 時間を要した。術後は、代用膀胱になった回腸の一端をわき腹に開けた穴（ストマ）からのぞかせて尿を排泄する。ストマから常時流れ出る尿を腹壁

に貼り付けた袋（パウチ）に貯めて 2~3 時間おきにトイレで捨てる生活が始まった。パウチは使い捨てで 3~4 日に一度交換する。

G 病院でパウチの装着訓練を受けて、術後 3 週間で退院、1 ヶ月余りの自宅療養を経て職場復帰を果たした。職場に戻れるとは思っていなかったのも、望外の喜びであった。しかし、多くの臓器を摘出する手術の影響は予想以上に大きく、体力は、術後丸一年が過ぎた現在も十分には回復していない。

私は検診は欠かさず、食生活も野菜が中心で、「がんを予防する食生活」そのもののような暮らしをしていた自分が膀胱の進行がんに侵されていたことはまさに青天の霹靂で、一時は我が身の不運を嘆いた。

しかし、地元クリニックへの初診から現在に至るまで、自分の病気と正面から向き合い、その時々を考え得る最善の手段を尽くして来た。そのことだけは自信を持って言える。したがってこれまでの闘病に関する後悔は無い。

私は、G 病院泌尿器科の主治医の Y 医師以下三人の医師、看護師、検査技師、その他大勢のスタッフの手厚い治療を受けて命を救ってもらった。チーム医療の素晴らしさを実感し、感謝してもしきれない気持ちだ。がんになったことは不運であったが、G 病院で治療を受けられたことは大きな幸運であった。

仕事は楽しいし、仕事以外にもうれしいことが沢山ある。生きていることの素晴らしさを改めて満喫する日々である。

人生は旅のようなものだ。どこまで行けるかわからないが、泌尿器科と二人三脚でこの道を歩き続けようと思っている。

*補足 2023 年の春、仲間内の若いオストメイトの方の「皆さんと一緒に LINE しましょよ」の一声からグループ LINE を始めました。そのグループ LINE 名を「ハッピーオストメイト」と名付けたのが吉松恵子さんです。

（川崎市オストミー協会 ^{さかもと} 坂本 ^{じゅん} 純）

横須賀軍港巡り

令和 5 年 7 月 17 日（祝月）、多摩区身体障害者協会では日帰りバス旅行「横須賀軍港巡り」を実施しました。

当日は晴天、気温は 35.7℃と暑い中、参加者は期待に胸を膨らませて登戸を出発しました。浜風が頬を撫でる横須賀では、この気温も心地よい暑さとして感じられました。福祉バス「きぼう号」に乗り込んだ総勢 24 名（介助者を含む）は、バス内で久しぶりの再会を楽しみ、船酔いの対策の話などで和やかな雰囲気。

その後横須賀汐入棧橋に到着、乗船手続きを済ませ、11 時に軍港巡りの船に乗り込みました。いよいよ船は棧橋を離れ、女性案内人（ガイドさん）の軽快な説明が始まりました。ここ横須賀は日米の艦船を間近で見られる日本で唯一の場所だそうです。



（当日の乗船券）

少し進むと日米の艦船が海を隔てて左右に停泊していて、それぞれ国旗を掲げている姿は勇壮でした。あいにく空母ロナルド・レーガンは秋まで来ないということで少し残念でした。

中でも掃海艦 301「やえやま」という船が珍しく見ごたえがありました。この船は海中の磁気機雷に対応するため全て木造で、木造船としては世界最大級だそうです。この珍しい船を目の前で見ることができたことは、大変貴重な体験でした。最後に潜水艦が 4 艇並んでいる姿を見られたのは圧巻でした。

45 分間と言う短い時間でしたが、それぞれの艦船に秘められた物語や歴史を感じることができ、非常に興味深く心に残る軍港巡りとなりました。

昼食は久里浜に移動して、海鮮丼やお刺身など、皆さんそれぞれ好きなものを注文し、お腹も満たされたようでした。

その後、いちごよこすかポートマーケット（愛称：よこすかポートマーケット）という所で、それぞれ買い物やお茶の時間を楽しんだ後、帰路につきました。

17 時ほぼ予定通りに無事に登戸に帰着。夏の一日、横須賀での素晴らしい思い出を作ることができました。

（多摩区身体障害者協会 わたなべ 渡辺 いくこ 幾子）

編集後記

本号の内容はいかがだったでしょうか？

特集である福祉大会では、それぞれの障害をお持ちの方達の要望事項を通して、切実な思いが伝わってきました。要望事項が聞き入られる事を願っています。

オストミー協会の吉松恵子さんの手記では、凶らずも膀胱ガンになり摘出し、人工膀胱を装着するまでの凄まじい経験を経てなお、毅然とした彼女の生き方に感銘を受けました。

多摩身協の海の日の横須賀軍港巡りでは、暑さにもめげず、日米の軍艦を遊覧船に乗り見学出来たこと、皆さんの歓声が伝わってくるようでした。遊覧船に揺られながらこの見学は、平和であればこそその行事ではなかったのでしょうか。

（編集委員 おおすき 大漣 すみこ 純子）

発行人 神奈川県障害者定期刊行物協会
〒222-0035 横浜市港北区烏山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール 3F
横浜市車椅子の会内 （頒価 100 円）